
幸せな日々

翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せな日々

【Zコード】

N6458S

【作者名】

翼

【あらすじ】

女の子にまつたくと言つていいほど興味がない主人公相田 翔は転校生である大崎麗香と出会つた。

女の子に興味がない翔が徐々にひかれしていくが…
翔には辛い過去が…

そんな中お互いにひかれあう気持ちを書いてみました。

。

……こ……

「……お……こ……」

「お~~~~~い……」

「うわっ……」

ガタンッズン！

「こつてえーーー向すんだよ母さん……！」

「起こしてあげたのにその態度はなんなのーーー。」

「今日、高校の始業式よ？忘れたの？」

「知ってるよーーだけど、こんなに早く起きたっていいじちゃん
くない？」

「なにバカ言ひてんのよーー？遅刻するよー早く着替えてーー。」

「はっ？まだ7時じゃねえかよーはあーーとつとつ半で頭がおかしくなったのか……」

「誰が…おかしいですかーー翔くん？」

「いや……あの……何も言ひてない……ですか……こつも綺麗なお母様……」

「だよね～……あつー早く行かないことー。」

「だから～まだ7時だつて言ひて……るへ」

時計を見たオレは固まつた。

そう！時計は8時15分を差していたのでした～（笑）

「つてー！そんなこといつてるばあにかあ～！……」

「着替えるから早く母さんでつてー！」

「は～い ひなみに～今日母さんも寝坊したから～朝御飯ないから
ね

「なんで寝坊してんだよ！

くつそお～！初っぱなから遅刻はマズイだろ～！…」

ガタガタガタ…ガチャヤ！

「……行つてくるー！」

「行つてらつしゃ～い

（走れば間に合つー。）

おつす！

そういうえば自己紹介がまだだつたな！

オレは相田 翔だ！

そして母さんは相田 礼子。

いつも楽しく、気楽に生きてる。今年で32歳！
なんとオレを16歳で産んだという。

まつーそんのはいいかー今年で高校2年になる。神野高に通つて
ひざばた

モルヒネ

あつ！ヤバイ！あと5分しかない！

ごめん！ 急ぐからまた後でな！

「おつかれ！」

「……間に合うか？……バタンツ！……間に合つたあ～～～」

「おおー！初っぱながら遅刻なんてさすがだねー翔！…ああーでも残念！あと3分早ければ間に合つたのになあー！」

「何言つてんだよ海斗……先生来てないじゃん……はあ……はあ……オレの勝ちだ～！」

「ほれ！後ろ見ろ！」

「はつ?.....後ろつて.....誰もい.....ないえつ?」

「相田くん… なんで… 遅れたのかな?」

翔は走った汗とは違う汗が流れるのを感じた。

「いやあ……寝坊で……あははは……」

「そっか しょうがない子だね」

「……ギクッ！せ…先生？…目が…笑ってないですよ…」

「そ、う？…なんでだと思つ？…」

「それは…え～つと…」

翔は海斗に助けを求めたが…目線を合わせてくれない…

「翔く～ん？今田はもう我慢が限界よ～！罰を引けなくちゃね？」

「えつ…そんなつ！」

「文句でもあるのかな？相田くん…」

「…いえ…ありません！」「じゃ放課後雑巾がけね？」

「…はいっ」

その光景を見ていたクラスの皆は腹を抱えて笑っていた。
…とくに海斗…！

「は～い！みんな静かにして～！」

先生が手を叩いて皆を教卓の方へ向かせた。

「今日はなんと転入生がきます！」

「しかも…女の子だよ…」

クラスの男子が目を光らせていた。

翔をのぞいて…

「それじゃ入ってきなさい！」

ガラガラ…

ドアが開いた方にクラスの皆の視線がそそがれた。

「「おお～～～！！」」

男子だけでなく、女子までもが驚くくらい、綺麗で可愛い女の子が入ってきた。

「それじゃ自己紹介してくれるかな？」

「はいっ！私は大崎麗香と言こます！皆さんよろしくね！」

自己紹介を聞いた皆は、もう興奮状態だ。

「おい！翔！あの子可愛いのかよ？どんなだけ興味ねえんだよ…女の子に興

味ねえ男なんて、そうはいねえぞ？…まさか…お前ゲイか？」

「ぶつ！…バカかお前…ふざけんな！」

翔は少し不機嫌になつた。横で海斗が謝るも、まったく聞く耳を持たないで、無視を続けた。

「んじゃー大崎さんの席は…相田君の隣ねー田島君！席移動して！」

「えつー オレ移動ー?... マジかよ... 翔と離れんじゃんー。つまんねえ
」

「じゅあなあー 海斗ー。」

「ああー... でもこいつかー 眠いほどいの女の子が来たんだしー。」

「どんだけ女の子好きなんだよ...」

翔は海斗の女の子に対する異常なほどいの執着に少し引いてしまった。

翔は机に顔をつけながら窓から見える空を見ていた。
「んじや大崎さん席についてねー。」

「はーつー。」

麗香は翔の横の席につくと、翔に話しかけた。

「あのー...」

「んつー?」

「大崎麗香と言こますー。よひしへね?」

「ああ... よひしへ。オレは相田翔。よひしへな
「うんー 翔君だね えへへ」

「.....うん」

顔やスタイルなどモデルよりもいい。すれ違えば誰もが振り返る、そんな子だ。しかし、翔だけはまったく興味がないようで、素っ気ない返事をして終わつた。

これがこの物語の主役である！

相田 翔と大崎麗香の出会いである。

これからどうなるのか！

ご期待ください！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6458s/>

幸せな日々

2011年10月9日00時22分発行